

シングリックスの安全性

- 多くの方に注射部位の痛みや腫れがあらわれますが、これは、体内で強い免疫をつくらうとする仕組みが働いたためと考えられます。

シングリックス接種後7日間に起こった主な副反応

注射した部位	痛み [78%]	赤み [38%]	腫れ [26%]
注射部位以外	筋肉痛 [40%]	疲労 [39%]	頭痛 [33%]
	悪寒 [24%]	発熱 [18%]	胃腸症状 [13%]

[]内は副反応が起こった人の割合

承認時評価資料: 国際共同第Ⅲ相臨床試験, ZOSTER-006/022併合解析

副反応の多くは3日以内に治まりますが、気になる症状があれば、医師にご相談ください。



シングリックス接種後の注意

- 1 接種後30分程度は、接種した施設で安静にしましょう。
体調の変化がないことを確認してから帰宅しましょう。



- 2 接種当日は激しい運動を避け、注射部位を清潔に保ってください。
接種当日の入浴はさしつかえありません。



- 3 注射部位の異常な反応や体調の変化を感じた場合は、すぐに医師の診察を受けてください。

- 4 シングリックスの接種により健康被害が発生した場合には「医薬品副作用被害救済制度」により治療費等が支給される場合があります。詳しくは独立行政法人医薬品医療機器総合機構のホームページ等をご覧ください。

医療機関名

带状疱疹ワクチン シングリックス筋注用を 接種される方へ

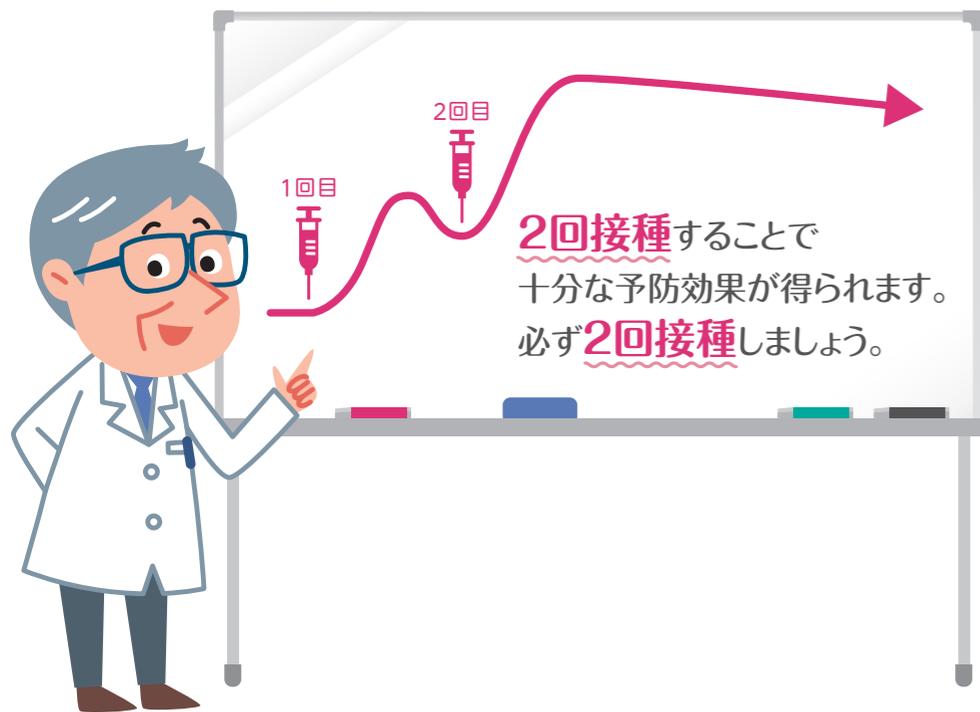
【編集協力】独立行政法人 国立病院機構 東京病院 臨床研究部長 永井 英明 先生



シングリックスは、50歳以上が対象の帯状疱疹を予防するためのワクチンです。

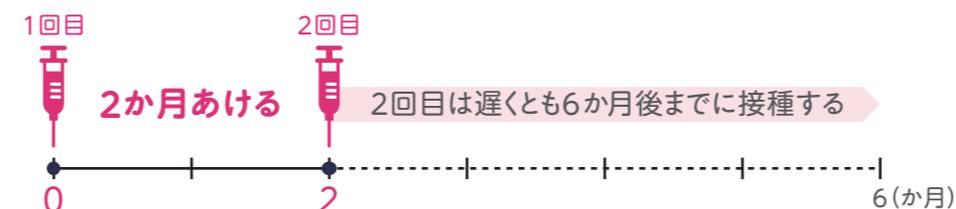
シングリックスの効果

- 2回の接種で、帯状疱疹に対する**予防効果**が得られます。



シングリックスの接種方法

- シングリックスは、**2回**の**筋肉内注射**が必要です。



シングリックス*と他のワクチンとの接種間隔

- 他※不活化ワクチンの不活化ワクチンの接種を受けた方は6日以上、生ワクチンの接種を受けた方は27日以上あけてシングリックスを接種します。
- シングリックス接種後に他のワクチンを接種する場合は6日以上あけてください。

なお、医師の判断により同時接種も可能です。

ワクチンは大きく2つに分けられます

不活化ワクチン：

病原性をなくした細菌やウイルスの一部を成分としたワクチン
インフルエンザワクチン、肺炎球菌ワクチン など

生ワクチン：

病原性を弱めた細菌やウイルスそのものを成分としたワクチン
MR(麻しん・風しん混合)ワクチン など

予防接種を受けることができない方

- 明らかに発熱(37.5℃以上)している方
- 重い急性疾患にかかっていることが明らかな方
- 過去にこのワクチンの成分によってアナフィラキシー*を起こしたことがある方
- その他、医師が予防接種を受けることが不相当と判断した方

*通常接種後30分以内に出現する呼吸困難や全身性のじんましんを伴う重いアレルギー反応のこと

予防接種を受ける前に、医師への相談が必要な方

- 心臓血管系・腎臓・肝臓・血液などの基礎疾患のある方
- 予防接種で接種後2日以内に発熱のみられた方、全身性発疹などのアレルギーを疑う症状がみられた方
- このワクチンの成分に対して、アレルギーを起こすおそれのある方
- 過去にけいれんを起こしたことがある方
- 過去に免疫不全と診断された方、近親者に先天性免疫不全症の方がいる方
- 血小板が少ない方や出血しやすい方
- 妊婦または妊娠している可能性のある方、授乳中の方
- 最近1か月以内に予防接種を受けた方

